

平成28年度地方ブロック別連絡会の成果及び 平成29年度の取組の方向性について

観光庁

平成29年4月25日

設置の背景

急増する訪日外国人を受け入れる上での現状と課題をしつかり把握し、必要な手立てを迅速に講じるため、各ブロックの地方運輸局、地方整備局、地方航空局や都道府県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた地方ブロック別連絡会」を平成27年3月に設置。

※その後、平成28年4月に会議名称を「**訪日外国人旅行者の受入に向けた地方ブロック別連絡会**」へ変更

地方ブロック別連絡会

構成員例

地方運輸局、地方整備局、地方航空局、都道府県・政令市、
関係事業者・団体（交通、旅行、宿泊等）、日本観光振興協会（各支部） 等

課題例

通訳案内士、宿泊施設、CIQ、決済・通信環境、多言語対応、外国人患者受入、
地方空港ゲートウェイ機能、クルーズ船、観光バス駐車スペース、
交通結節点の機能向上 等



スケジュール

地方ブロック別連絡会を平成27年度
から継続運営

昨年度から引き続き
検討していく課題を
中心に対策を実施

H28年6月末
ブロック別に
中間とりまとめ

H28年12月末
ブロック別に
年末とりまとめ

観光庁とりまとめ

新たな課題把握、既存
の課題整理を実施

年内に解決したもの
年度内に解決の見込みがあるもの

課題件数 547件 (対前年度比+131件)

平成28年度の特徴

①「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業」等、国の補助制度を活用した課題解決の加速化

- ⇒ ■公共交通機関、宿泊施設、観光案内所等におけるインバウンド対応支援
- 貸切バスの路上混雑緩和、決済環境整備、渡航者医療の充実に向けた実証実験の実施 等

②インフラ施策を取り込んだ観光施策の増加

- ⇒ ■クルーズ船寄港増・大型化に伴う港湾施設の受入環境整備の強化
- 交差点標識等への観光地名称の整備 等

③都市部・地方部における課題の二極化

- ⇒ ■都市部：交通手段のわかりづらさ、混雑集中 等
- ⇒ ■地方部：二次交通の確保、多言語対応、通信環境整備等、基本的な受入環境整備の実施 等



【凡例】
課題件数
(平成27年度件数)

**58件
(53件)**

**20件
(18件)**

**23件
(42件)**

**66件
(49件)**

**66件
(31件)**

**106件
(94件)**

**91件
(57件)**

**48件
(28件)**

**35件
(28件)**



課題	課題解決に向けた主な対応	成果事例提出数	各ブロックの内訳													
			運輸局	整備局	航空局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	
①多言語対応の改善・強化	・交通結節点における多言語案内版等の整備による移動円滑化の実現 ・外国人旅行者にも分かりやすい道路案内標識の多言語整備 等		23	11	11	1	4	1	3	1	4	2	2	3	3	0
②外国人観光案内所等の整備	・日本政府観光局（J N T O）認定外国人観光案内所の整備 ・手ぶら観光・免税カウンターの整備による消費拡大の取組 等		16	9	7	0	2	4	0	2	3	1	1	1	1	1
③通信環境の整備	・道の駅や観光地等における公衆無線L A N環境の整備		9	5	4	0	2	2	0	1	2	1	0	1	0	0
④緊急時・災害時における対応	・外国人旅行者向け電話医療通訳サービスの実施 ・災害時における外国人旅行者の避難誘導マニュアルの策定 等		3	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
⑤路上混雑緩和渋滞対策	・路上マナー啓発、整理員による駐車場への誘導 ・バス駐車スペースの確保 ・都市部・観光地周辺における貸切バスのショットガン方式の実施 ・バス専用レーンの整備等による交通の移動円滑化 等		16	8	8	0	2	1	1	0	3	2	1	1	3	2
⑥交通利便性の向上	・外国人旅行者向け企画乗車券等の造成、I Cカード導入による広域観光の実現 ・空港・鉄道駅から観光地や市街地を結ぶ二次交通網の確保・充実		17	16	1	0	4	2	3	0	3	4	0	1	0	0
⑦宿泊施設の確保・環境改善	・都市部における宿泊施設不足解消に向けた増室・容積拡大の取組 ・外国人旅行者が対応可能な宿泊施設の環境改善、機能拡充の取組		6	6	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	0
⑧決済環境整備	・クレジットカード決済が可能な環境の整備		2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0

課題	課題解決に向けた主な対応	成果事例提出数	各ブロックの内訳												
			運輸局	整備局	航空局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
⑨空港機能の拡大・混雑緩和対策	<ul style="list-style-type: none"> 発着枠の拡大に対応した空港施設の拡張整備 C I Q 関連施設の拡張・最新機器の導入等による円滑な入国審査体制の整備 等 	15	2	0	13	4	0	2	1	0	1	2	0	4	1
⑩大型クルーズ船の受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 大型クルーズ船の接岸に対応した港湾施設・岸壁等の整備 C I Q 関連施設の拡張による円滑な入国審査体制の整備 等 	10	0	10	0	2	1	0	1	1	2	1	1	1	0
⑪インフラ整備、インフラを活用した観光振興	<ul style="list-style-type: none"> 都市間や主要観光地を結ぶ道路網整備によるアクセス機能の向上 交通結節点の整備による交通モード間の接続強化 景観に配慮した観光地の無電柱化整備 等 	15	0	15	0	3	2	2	1	0	2	1	2	2	0
計		132	62	56	14										

取組成果事例

北海道ブロック

外国人レンタカー利用者に対する多言語による情報発信

○急増する外国人のレンタカー利用者に対して、道路情報や注意喚起を分かりやすく発信するため、**道路情報板を活用した英語による情報発信、道路の通行規制情報を英語版webサイトにて提供を実施。**

国道39号動物飛び出し注意の英語表示

平成28年7月～実施



北海道地区道路情報英語版webサイト

平成28年9月～開設

通行止め路線を地図上に表示

通行止め路線、区間、時間帯 を英語で表示

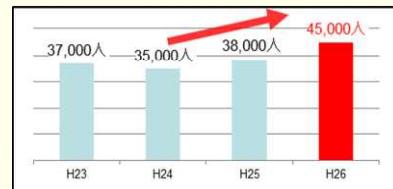
東北ブロック

主要観光地等における無電柱化

○「平川ねぷた祭り」最大の目玉である高さ11メートルの「世界一の扇ねぷた」の円滑な運航と壮大な景観を確保するため、地域の無電柱化を実施。



架空線を避けるため、
上部を折りたたみ 祭りが一時中断



▲平川ねぷた入り込み客数
出典：青森県観光入込客統計



関東ブロック

「バスタ新宿」の整備によるモーダルコネクトの強化

○高速バス、タクシー、鉄道が直結し、19箇所に点在していた高速バス停が集約され、乗換がスムーズに。また、観光情報センターも併設し、観光情報も提供。



整備前は点在していた高速バス発着場を19カ所から1カ所に集約



インフォメーションカウンターや情報板、自動券売機は複数言語に対応

取組成果事例

北陸信越ブロック

医療通訳士派遣、多言語通訳サービスの提供

○長野県ではスキーや雪を楽しむ外国人旅行者が多く、それにまつわるケガや事故も多いため、緊急時における多言語コミュニケーションサービスを提供。

- ・医療電話通訳サービス

H28.12.10～H29.3.20

電話による3カ国語（英語、中国語、韓国語）の通訳を行う

対応時間 9：00～20：00

- ・医療通訳士の派遣

H28.12.10～H29.3.20

医療機関やスキー場等施設からの依頼を受け派遣する



中部ブロック

中部国際空港アクセス向上に向けた取組

○増加する外国人観光客に対応する為、中部国際空港と名古屋市内を結ぶ「セントレアリムジン」を1日14往復に増便。併せて乗継拠点のバス乗り場の案内表示の見直しを実施。

・セントレアリムジン1日8往復
⇒1日14往復に増便

- ・14往復化により、最大2時間の待ち時間が1時間未満に短縮。
- ・1ヶ月あたり4,636人増（11月）



【ラッピングを施したリムジンバス】

【案内表示板による乗り場案内】

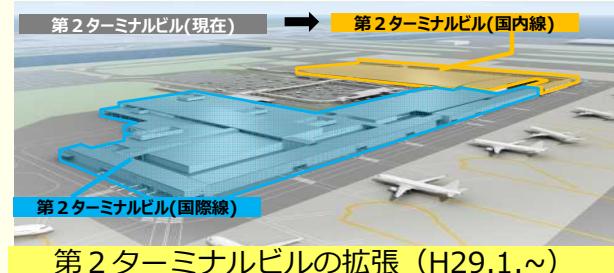


【大型モニターによる運行情報の提供】

近畿ブロック

関西国際空港におけるC I Q施設等の整備、体制強化

○空港内の混雑解消を図るため、LCC専用ターミナルの増設、入国審査官の増員、最新の検査システムを導入。



ボディスキャナー



第2ターミナルビル（国際線）にスマートセキュリティシステム導入



第1ターミナルビル入国検査場に「バイオカート」設置（H28.10～）



取組成果事例

中国ブロック

宿泊施設容量拡大・宿泊環境の整備

○広島市内のホテルにおいて、**新設や容量拡大整備を実施。**周辺の宿泊施設においても**観光庁補助制度を活用した機能性・快適性向上**に向けた改修を実施。

- ・市内ホテルの新設

⇒3施設合計1,589室の増室

- ・シングルルーム135室をツインルーム化、容量拡大を実施

- ・周辺宿泊施設もインバウンド対応を推進

⇒「宿泊施設インバウンド対応支援事業」を活用した機能性・快適性向上を実施



九州ブロック

クルーズ船の寄港増・大型化に対応した受入環境の改善

○既存岸壁に**小規模な改良（防舷材・係船柱の設置等）を施すことにより、大型クルーズ船の受入を可能とする整備を実施。**



「受入拡大した事例」

- ・八代港外港地区：8万トン級→16万トン級
- ・油津港東地区：7万トン級→16万トン級
- ・博多港箱崎地区：11万トン級→16万トン級



四国ブロック

多言語コールセンターの設置

○**24時間体制・多言語対応（4カ国語対応）可能なコールセンターを設置。**（徳島県・高知県）

【徳島県】

H27年7月～H28年2月実績
利用登録 26施設／71件利用

H28年4月～H28年10月末実績
利用登録 33施設／91件利用

【高知県】

H28年6月～H28年10月末実績
利用登録 130施設／61件利用



沖縄ブロック

国際通り周辺における路上混雑緩和に向けた乗降場整備

○国際通り周辺に貸切バスの待機場を整備し、必要に応じて乗降場へ向かう**「ショットガン方式」による渋滞緩和対策**を実施。

取り組み内容

- ・沖縄県那覇市国際通り近く（1.7km）に待機場（16,000m²）を確保

- ・貸切バスを待機させ、乗降場へショットガン方式により車両を出庫。乗降場及び周辺の渋滞緩和対策を実施

実施期間

H28年9月26日～H28年12月10日



設置の背景

- 今後我が国の観光資源の魅力を高めていくためには、中長期的な視点に立った観光地域づくりを行っていく必要があるが、そのためには各地域においても関係省庁を含む多数の関係者との連携・調整を行うことが不可欠である。
- このため、既存の地方ブロック別連絡会を発展的に改組し、平成29年度当初に「観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議」を設置・開催する。

戦略会議の実施体制

観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議

- 構成員例
- ・地方運輸局・地方整備局・地方航空局
 - ・関係省庁地方支分部局（地方農政局・地方経済産業局・地方総合通信局・地方環境事務所等）
 - ・地方自治体（都道府県・政令指定都市等）
 - ・空港・港湾・道路管理者
 - ・各事業者団体（交通事業者団体・旅行事業者団体）
 - ・観光関係団体（広域の観光機構やDMO等）
 - ・その他、教育委員会、経済団体、日本政府観光局（JNTO）、通信事業者、物流事業者、大学・専修学校（観光分野）等、必要と認められる者

事務局

地方運輸局及び地方整備局

- 親会 年1回程度
- WG 年2~3回程度

※上記を基本として、各地域の実情に合わせて実施

観光資源魅力向上WGの新設

観光ビジョン推進地方ブロック戦略会議

既存のWG

航空・港湾WG

二次交通WG

観光地域づくりWG

観光資源魅力向上WG

新WG

- 観光資源魅力向上WGでは、観光ビジョン掲載施策の具体化の推進のために、必要な課題を議論する。

検討課題の例

- ・国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
- ・景観の優れた観光資源の保全・活用による観光地の魅力向上
- ・滞在型農山漁村の確立・形成
- ・伝統工芸品の消費拡大
- ・通信環境の飛躍的向上 等